

## 子宮頸がん予防ワクチンの接種を受ける前に

子宮頸がんは、発がん性ヒトパピローマウイルス（発がん性HPV）というウイルスの感染が原因で引き起こされる病気です。発がん性HPVには、15種類ほどのタイプがあり、その中でもHPV16型、HPV18型は子宮頸がんから多くみつけるタイプで、子宮頸がん患者の約60%からこの種類の発がん性HPVがみつかっています。

今回の「子宮頸がん予防ワクチン」は、HPV16型、HPV18型の感染を防ぐワクチンです。すべての子宮頸がんの効果があるわけではありません。また、保護者の希望で接種する任意の予防接種（予防接種法で定められている定期の予防接種ではありません）となっています。

子宮頸がんワクチンの接種対象者は、10歳以上の女子です。

### ◆費用助成対象者

大津市では、中学1年生～高校1年生相当年齢対象の女子に接種費用の助成を実施しています。

### ◆接種スケジュール

初回接種・初回接種から1ヶ月後・初回接種から6ヶ月後の3回接種

### ◆次のいずれかに該当する場合は主治医と十分に相談をして下さい

- (1) 血小板が少ない人や出血しやすい人
- (2) 心臓・腎臓・肝臓・血液疾患及び発育障害等の基礎疾患のある人
- (3) 今までの予防接種で2日以内に発熱のみられた人、又は全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がでたことがある人
- (4) 過去にけいれんをおこしたことがある人
- (5) 過去に免疫不全の診断を受けたことがある人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- (6) 妊婦あるいは妊娠している可能性のある人
- (7) 現在、授乳中の人

### ◆次のいずれかに該当する場合は今回の予防接種は受けられません

- (1) 熱がある人（体温が37.5℃以上）
- (2) 急性感染症の麻しんは治癒後4週間、風しん、おたふくかぜ、水痘等は治癒後2～4週間、その他の軽い感染症については1週間を経過していない人
- (3) 急性灰白髄炎（ポリオ）、BCG、麻しん風しん、おたふくかぜ、水痘等の予防接種を受けて4週間以上、日本脳炎、三種混合、インフルエンザの予防接種を受けて1週間以上経過していない人
- (4) 接種しようとする接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな人
- (5) その他、医師が不相当と判断した時

### ◆接種後の注意事項

- (1) 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーが起こることがありますので、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- (2) 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、すみやかに医師の診察を受けて下さい。
- (3) 接種後に接種部位の腫れを認めることがあります。腫れが目立つ時は医師にご相談下さい。
- (4) 接種後24時間は、激しい運動は避けて下さい。
- (5) 入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。接種部位は清潔にしてください。
- (6) 接種医師からの注意事項等については厳守して下さい。

#### ◆副反応について

予防接種により、軽い副反応や、極めて稀ですが、重い副反応がおこることがあります。

##### 主な副反応

- 頻度 10%以上・・・接種部位の腫れ・痛み、胃腸症状(吐き気・嘔吐・下痢・腹痛など)、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労
  - 頻度 1～10%未満・・・発疹、じんましん、接種部位のしこり、めまい、発熱、上気道感染
  - 頻度 0.1～1%未満・・・接種部位のピリピリ感・ムズムズ感
  - 頻度不明・・・失神・血管迷走神経発作(息苦しい、息切れ、動機、気を失う)
- 稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)等が報告されています。

#### ◆健康被害救済制度について

子宮頸がん予防ワクチンの予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合は、医薬品医療機器総合機構法及び大津市予防接種事故災害補償要綱に基づく健康被害救済の対象となります。ただし、副反応の原因が予防接種によるものと認定された場合に限りです。

#### ◆子宮頸がん

子宮頸がんは、子宮頸部(子宮の入り口)にできるがんで、最近では20～30代の患者が急増し、日本では年間15,000人の女性が発症していると報告されています。子宮頸がんは、初期の段階では自覚症状がほとんどないため、しばしば発見が遅れてしまいます。がんが進行すると、不正出血や性交時の出血などがみられます。

子宮頸がんを発症するのは、発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)に感染した人のうち1%未満であると考えられています。発がん性HPVは、特別な人だけが感染するのではなく、誰でも感染するありふれたウイルスです。感染しても多くの場合、感染は一時的で、ウイルスは自然に排除されますが、感染した状態が長い間持続すると、子宮頸がんを発症することがあります。

#### ◆子宮頸がん予防ワクチンについて

子宮頸がん予防ワクチンは、15種類ほどある発がん性HPVのうち、HPV16型とHPV18型の2つのタイプの発がん性HPVの感染を予防するワクチンです。その他の、発がん性HPVの予防はできません。また、すでに感染しているウイルスをなくしたり、がんになるのを遅らせたり、子宮頸がんを治したりすることはできません。

#### ◆子宮頸がん検診について

子宮頸がん予防ワクチンは、すべての子宮頸がんにも効果があるわけではありません。子宮頸がん予防ワクチンでは予防できない病変の早期発見のために、子宮頸がん検診の受診が必要です。

大津市では、20歳以上を対象に2年に1回の受診間隔で子宮頸がん検診を実施しています。20歳を過ぎたら、定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。10代の方については、公的な検診制度はありませんが、気になることがありましたら、医療機関にご相談下さい。

**大津市保健所 保健予防課 感染症対策グループ**  
**電話 077-522-7228**